



大間々官民共創デザイン合同委員会

「使う、伝わる、行動する～まちの好循環をつくる都市再生実践論～」

みどり市 都市建設部 都市計画課

■ はじめに

みどり市では大間々中心市街地において、民間と行政が一体となってまちづくりに取り組んでいくための指針となる「大間々官民共創デザイン(※以下「デザイン」という)」を策定しています。合同委員会では、これまで検討してきたデザインの内容を市民の方々に説明することに加えて、デザイン策定後のアクションを明確にするために、全国のまちづくりの第一線で活躍されている西村浩氏を講師としてお招きし講演会を開催しました。



会場のながめ余興場外観と
フライヤー(右)



■ 講演会

講師の西村浩氏は建築・リノベーション・土木分野のデザインに加えて、全国各地の都市再生戦略の立案にも取り組まれています。

講演会では人口減少時代の中でまちを持続させるための方法についてお話しいただきました。佐賀県呉服元町通り(200m)の風景を十数年かけて変えてきた事例や、長野県佐久市中込地区の歩行者専用道路(公共空間)において民間主導の社会実験から公共投資に結びつけた事例を基に、小さなエリアで小さいアクションを積み重ねることは周辺にも影響を与え、エリア価値を向上させることを示していただきました。

また、全国を中心市街地・商店街衰退については、戦後の高度経済成長期の画一的な都市計画ではなく、まちの中心部におけるミクストユースな職住近接や、まちなかに存在する空き地や空き家・空き店舗などの余白を楽しみながらまちの魅力を高め、小さい投資、小さい行動が集まるような人気で選ばれるまちになることが大切だと教えていただきました。

まちづくりは一朝一夕で実現するものではありません。そのため将来を担う子どもたちの参加や、お母さんたちがまちで暮らせることがまちづくりを継続させるポイントであり、世代を超えてまちづくりに参画できる仕組みづくりや議論の場を設けることが必要であると分かりました。



デザイン説明 建部氏



講演 西村 浩氏



トークセッションの様子

■ おわりに

今回の講演会で、官民関わらず一人ひとりがまちの当事者となり、小さくてもできることから行動していくことが必要であると強く感じました。デザインの策定を機に、これまで以上に官民がそれぞれの適切な役割の下、まちの未来を共有し、手を取り合ってまちづくりに取り組んでいきたいと思います。



まちあるきの様子

